

3. 漁況予報調査研究費

1) H10年度アユ資源調査結果の概要

片岡佳孝・田中秀具・井出充彦・澤田宣雄・酒井明久

【目的】

琵琶湖産アユは琵琶湖漁業において重要であるだけでなく、河川放流や養殖用の種苗としても重要である。当场では湖産アユの資源状況を把握するための資源調査を過去から継続して行っているが、本年度も同様の調査を行った。

【方法】

魚探調査、産卵調査、ヒウオ生息状況調査、漁獲体型調査をこれまでと同様に行った。

【結果】

1. 魚探調査（図1）

1月から3月の魚群数は、それぞれ平年比 227%、250%、208%と平年値を大きく上回って推移した。その後、4月 75%、5月 152%、6月 105%、7月 211%、8月 66%と推移した。

2. 産卵調査

産卵期の河川の通水状況は、台風7号、8号の接近（9/22頃）による出水までまとまった降水がなく、各河川とも水量が少なかった。これ以降は各河川とも水理状況が良好で河床の状態も良好であった。アユの産卵は、第2次調査（9/7～9）から確認された。第3次調査（9/21～24）、第5次調査（10/19）と河川の増水により調査ができず、産卵期通じての産卵量の量的な把握ができなかった。

3. ヒウオ生息状況調査（図2、3）

採集されたヒウオの採集尾数は第1次調査では 325尾（平年比 106%）、第2次調査では 268尾（平年比 93%）、第3次調査では 128尾（84%）と各調査とも平年値とほぼ同数のヒウオが採集された。平均体重は第1次調査 13.8mg、第2次調査 35.4mg、第3次調査 42.1mgと各調査とも小型であった。

4. 漁獲体型調査（図4）

エリ漁獲魚は、標準体長では平年値とほぼ同サイズであるが、体重は平年値より小さかった。ヤナは春先（4月～5月）の通水状況も良く、全体的に遡上が早かった。漁獲魚の体型も4月、5月は平年値に比べて大きかった。6月以降は平年値より小型であった。

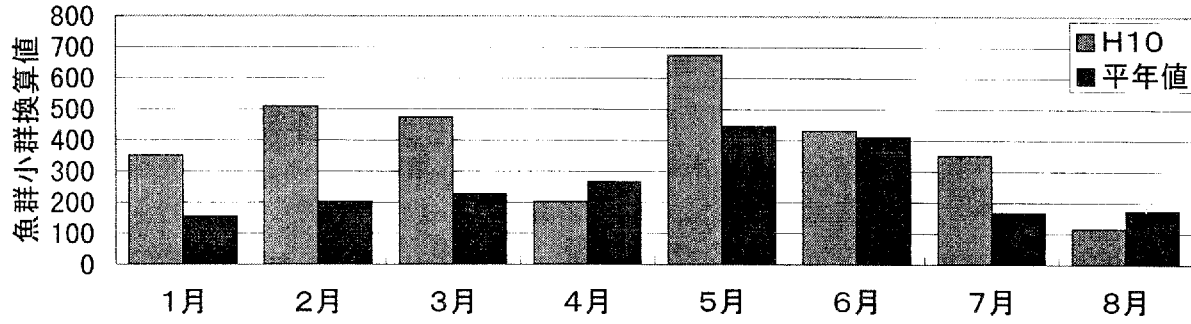


図1 魚探調査結果

表1 ヒウオ生息状況調査結果

	1曳網平均採集尾数		
	平成10年	平年値	平年比(%)
第1次調査(10/22.23)	325	306	106
第2次調査(11/24.26)	268	288	93
第3次調査(12/15.16)	128	152	84

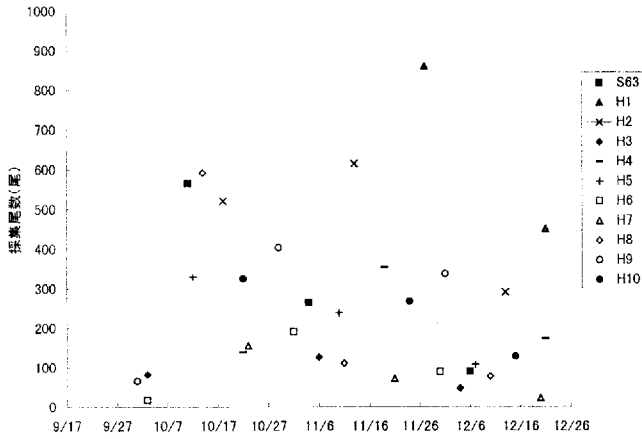


図2 調査日と平均採集尾数(1曳網あたり)の関係

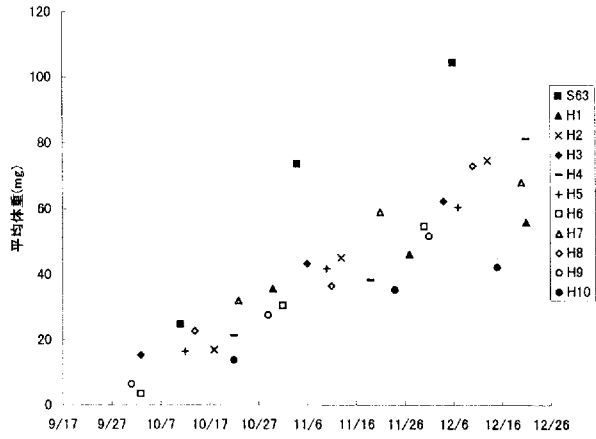


図3 調査日と平均体重の関係

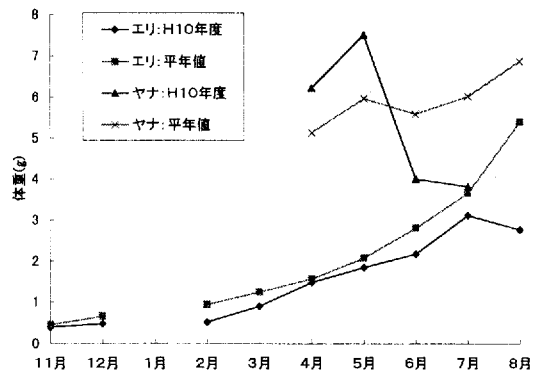
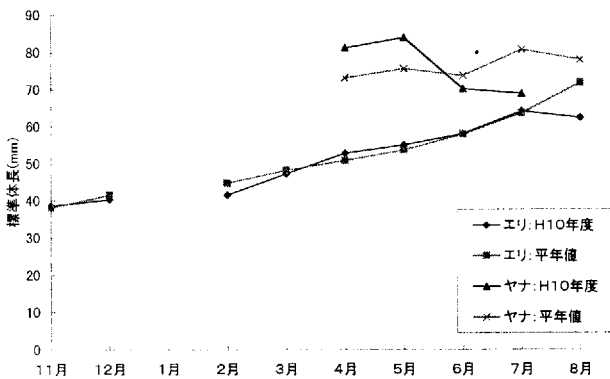


図4 漁獲体型調査